（別紙様式４）

2023年6月30日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
湘央医学技術専門学校	昭和56年4月10日	稲福全人	〒252-1121 神奈川県綾瀬市小園1424番4号 （電話）0467-77-1234
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人湘央学園	昭和56年4月20日	稲福全人	〒　252-1121 （住所）　神奈川県綾瀬市小園１４２４番４号 （電話）　０４６７－７７－１２３４

分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
医療	医療専門課程	臨床検査技術学科	平成7年文部科学省告示第7号	ー	平成26年3月31日付

学科の目的	学校教育法及び臨床検査技師、衛生検査技師等に関する法律の規定に基づき臨床検査技師に関する専門技術及び理論を修得させ、職業に必要な実践的能力の育成と教養の向上を図ることを目的とする。
学科の特徴（取得可能な資格、中退率　等）	取得可能な資格：臨床検査委技師(国家資格) 中途退学率(2022年度)：15.4%(退学の主な理由：進路変更、家庭の事情、疾病等) 中退防止・中退者支援のための取組：個人面談の定期的実施、学納金についての相談窓口開設、補講授業実施、平常時の助言、カウンセリング、転科の実施等 その他：神奈川県内の医療機関(病院・検査センター・検診センター等)に卒業生が多い

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
3　年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	3110　(1/2年生)	1640 単位時間	265 単位時間	1205 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			2955　(3年生)	1505 単位時間	205 単位時間	1215 単位時間	0 単位時間	30 単位時間

生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数（生徒実員の内数）(B)	留学生割合(B/A)
240 人(学科80人)	181 人	0 人	0 %

就職等の状況			
	■卒業者数 (C)	: 53	人
	■就職希望者数 (D)	: 44	人
	■就職者数 (E)	: 43	人
	■地元就職者数 (F)	29	人
	■就職率 (E/D)	97.7	%
	■就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)	69.8	%
	■卒業者に占める就職者の割合 (E/C)	81.1	%
	■進学者数	0	人

■その他
主な進学先：短期大学(臨床工学専攻)、細胞検査士養成所等

（令和　4　年度卒業者に関する令和５年５月１日時点の情報）

■主な就職先、業界等
医療機関：大学病院・国公立病院・私立(医療法人・財団法人立)病院・診療所(クリニック)
検査センター
検診センター

第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：　無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体：　受審年月：　評価結果を掲載したホームページＵＲＬ
当該学科のホームページURL	URL: https://sho-oh.ac.jp/

企業等と連携した実習等の実施状況（Ａ、Ｂいずれかに記入）

（Ａ：単位時間による算定：**現1・2年生用**　**※現1年生と2・3年生ではカリキュラムが異なっています**

総授業時数	3,110 単位時間
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	440 単位時間
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間
うち必修授業時数	3,110 単位時間
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	440 単位時間
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	0 単位時間

（Ａ：単位時間による算定：**現3年生用※**）

総授業時数	2,955 単位時間
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	450 単位時間
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間
うち必修授業時数	2,955 単位時間
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	450 単位時間
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	0 単位時間

（Ｂ：単位数による算定：）

総授業時数	単位
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位

		うち必修授業時数	単位
		うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位
		うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位
		（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	単位

教員の属性（専任教員について記入）	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	8 人
	② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	0 人
	③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	0 人
	④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	4 人
	⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	0 人
	計		12 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね５年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	10 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

・建学の精神である「生命を尊重する、人間性豊かな専門職業人の育成」を目指す。
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点から関連分野と連携してカリキュラムや教育方法の工夫を実施する。
・実践的な専門職業教育を行う教育機関として、関係業界等において必要な人材育成を実現すること。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

・学校は、教育課程編成に関する事項を諮問するために教育課程編成委員会を設置する。
・学校は、委員会の答申を受け、理事会に教育課程変更の審議を要請するものとする。
・教育課程編成委員の選定には、当該分野において長期の現場経験のある医療従事者を中心とし、事前に従事内容や部署を確認し、意見を教育に反映する旨を説明し、承諾を得ることを基本とする。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

名　前	所　　属	任期	種別
芹澤昭彦	神奈川県臨床検査技師会　会長	2023年6月1日～2024年5月31日	①
成田和順	平塚共済病院　臨床検査科	2023年6月1日～2024年5月31日	③
高橋秀之	湘央医学技術専門学校　臨床検査技術学科　学監	2023年6月1日～2024年5月31日	―
勝又　修	湘央医学技術専門学校　臨床検査技術学科　学科長	2023年6月1日～2024年5月31日	―
髙橋裕治	湘央医学技術専門学校　臨床検査技術学科　主任	2023年6月1日～2024年5月31日	―
眞喜志俊彦	湘央医学技術専門学校　臨床検査技術学科　教員	2023年6月1日～2024年5月31日	―
鈴木玲於奈	湘央学園　学務部　学務課	2023年6月1日～2024年5月31日	―

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。）
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
（年間の開催数及び開催時期）
年2回　9月、2月
（開催日時）
第1回　2023年9月下旬　（予定）
第2回　2024年2月中旬　（予定）
（開催日時（実績））**前年度実績**
第1回　2022年10月4日(火)　19時00分～20時30分
第2回　2023年　3月7日（火）19時00分～20時30分

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

委員間において出た意見をもとに、次年度(2023年度)の対策を検討し、学生教育への向上に努めていくことで意見が一致した。
―(1)コロナ関連：前年度同様に基本的に講義・実習は対面での実施を軸にすすめるが、感染した自宅療養の学生に対し、Webを活用し授業内容の遅れがないように配慮する。また「コロナ慣れ」による学生同士のマスク不着用の会話も増え、教職員が意識し把握に努める。また、万が一、感染発生した場合は教職員間で瞬時に共有し拡大防止に全力をあげ、通常授業、臨地実習に影響がないように対応していく。(2)国家試験：近年、卒業延期者や国家試験の不合格者が発生してしまい、原因を解明し、今後は卒業延期者を大幅に減らすこと、受験者全員が国家試験に合格する対応を検討する(3)臨地実習：厚労省カリキュラム改定に伴う、臨地実習施設指導者の指導者講習会が必要になるため、今後、意図的に講習会を受けず、実習の受入を打ち切る施設が増えるてくると懸念される。今後も学園側としても講習会の趣旨・理解を求め、施設数の維持に努める。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

＜臨地実習＞

・学内で学んだ基礎知識と技術が臨床の場においてどのような形で実践されているかを学び、将来における実践的な臨床検査技師としての豊かな資質を養う。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

＜臨地実習＞

・現場での実際の臨床検査業務を体験理解するために、3年次5月から8月下旬までの約4ヶ月間の病院実習を行い、1週間のうち月曜日から金曜日までの5日間を実習日、原則として毎土曜日を登校日とする。

・専任教員による定期的な病院訪問で病院指導担当者より直接実習状況及び内容を確認する。また、日々各自で付けている実習ノートを基に実習内容の確認と指導を実施する。

・臨地実習の最終評価は実習施設による技能・態度を中心とした資質評価『臨地実習評価表』と学校による『実習試験』・『実習ノート』等の学力による総合評価を行う。

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	科　目　概　要	連　携　企　業　等
臨地実習	学内で習得した知識や技術が、実際の臨床の場において、どのような形で実践されているかを学ぶなかで、医療人としての心構え、医療サービスの精神を養う。	厚木市立病院、伊勢原協同病院、小田原市立病院、神奈川県立足柄上病院、川崎市立井田病院、関東労災病院、済生会神奈川県病院、済生会横浜市東部病院、済生会横浜市東部病院(病理・細菌検査)、済生会横浜市南部病院、湘南鎌倉総合病院、湘南藤沢徳洲会病院、聖マリアンナ医科大学病院、聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院、東海大学医学部付属病院、東京医科大学八王子医療センター、東京高輪病院、東邦大学医療センター大橋病院、日本医科大学多摩永山病院、沼津市立病院、平塚共済病院、平塚市民病院、藤沢市民病院、大和市立病院、横浜市立市民病院、横浜市立大学附属市民総合医療センター、横浜市立みなと赤十字病院、横浜南共済病院、横浜労災病院

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係			
（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針 ・学校は、職能団体、企業等が実施する学会および研修等へ教員を計画的に参加させることにより、職業に関連した実務に関する知識、技術および技能の向上、または授業および学生に対する指導力等の修得、向上を図る。 （2）研修等の実績 ①専攻分野における実務に関する研修等			
研修名：	2022年度日本臨床検査学教育協議会・第17回定時総会および教員研修会	連携企業等：	日本臨床検査学教育協議会
期間：	2022年5月	対象：	学科主任
内容	臨床検査教育の最新情報を得る研修会。新たな臨地実習に向けて問題点を整理できた。WEBによる開催。		
研修名：	小田原城北ロータリークラブ講演	連携企業等：	小田原城北ロータリークラブ
期間：	2022年6月	対象：	学監
内容	心電図海外ボランティア、「タイ国の子供たちへの支援」という演題でタイの奥地の山岳民族集落でストレートチルドレンの保護施設を支援したり、医療施設へ医療機器を寄贈等、子供たちの笑顔を取り戻すための活動講演を行う。		
研修名：	第16回日本臨床検査学教育学会学術大会	連携企業等：	埼玉医科大学
期間：	2022年8月	対象：	学科主任・教員
内容	学術発表および教員・学生合同研修会講演。教育等に関する取り組みやその効果について発表と質疑応答を行い、教育効果の高い手法を学び、学生指導に還元する。		
研修名：	2022年度神奈川県臨床検査技師会　第71回神奈川県医学検査学会	連携企業等：	神奈川県臨床検査技師会
期間：	2022年12月	対象：	学科主任・教員
内容	授業の一環として2年生を引率して参加。学生のモチベーションを向上させることが目的で卒前教育にも反映できる最新の検査に関する話題、就職活動に反映できる話題も聴講できた。		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名：	第95回日本超音波医学会・学術集会	連携企業等：	日本超音波医学会実行委員会
期間：	2022年5月	対象：	学監・教員
内容	特に心臓領域に関する学術的な発表を拝聴し、さらに超音波診断装置などについて研鑽を高め学生指導に還元する。		
研修名：	日本顕微鏡学会　第７８回学術講演会	連携企業等：	日本顕微鏡学会
期間：	2022年5月	対象：	学科長
内容	医師や研究者、臨床検査技師などを対象に微細形態解析や病理診断に必要な電子顕微鏡、レーザー顕微鏡の基礎技術の普及と育成が目的の講座で、受講を通じ得た内容を学生に還元していく。WEBによる開催。		
研修名：	日本臨床検査学教育協議会令和4年度臨時総会	連携企業等：	日本臨床検査学協議会
期間：	2022年12月	対象：	学科主任
内容	臨床検査教育の最新情報を得て学生教育に取り入れる。WEBによる開催。		

（3）研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	日本臨床検査学教育協議会　第18回定時総会および教員研修会	連携企業等：	日本臨床検査学教育協議会
期間：	2023年5月	対象：	学科主任
内容	臨床検査教育の最新情報を得る研修会。情報は教員・学生に共有していく。WEBによる開催。		
研修名：	第17回日本臨床検査学教育学会学術大会	連携企業等：	天理大学
期間：	2023年8月	対象：	学科主任・教員
内容	学術発表および教員・学生合同研修会講演。教育等に関する取り組みやその効果について発表と質疑応答を行い、教育効果の高い手法を学び、学生指導に還元する。		
研修名：	2023年度神奈川県臨床検査技師会　第72回神奈川県医学検査学会	連携企業等：	神奈川県臨床検査技師会
期間：	2023年12月	対象：	学科主任・教員
内容	授業「病態解析演習」の一環として2年生全員を引率して参加した。学生のモチベーションを向上させることが主目的で、卒前教育、今後の就職活動にも反映できる最新の検査に関する話題を学生に還元する。		
研修名：	2023年度日本臨床検査学教育協議会・臨時総会	連携企業等：	日本臨床検査学教育協議会
期間：	2023年12月	対象：	学科主任
内容	臨床検査教育の最新情報を得て学生教育に還元する。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	臨床検査室での研修	連携企業等：	あけぼの病院
期間：	2023年4月	対象：	教員
内容	現業の医療機関にて、特に生理検査領域に関する実技を通じて研鑽を高め、学生指導に還元する。		
研修名：	第96回日本超音波医学会・学術集会	連携企業等：	日本超音波医学会実行委員会
期間：	2023年5月	対象：	学監・教員
内容	超音波、特に心臓領域に関する学術的な発表を拝聴し、さらに超音波診断装置などについて研鑽を高め学生指導に還元する。		
研修名：	日本顕微鏡学会　第79回学術講演会	連携企業等：	日本顕微鏡学会
期間：	2023年6月	対象：	学科長
内容	医師や研究者、臨床検査技師などを対象に微細形態解析や病理診断に必要な電子顕微鏡、レーザー顕微鏡の基礎技術の普及と育成が目的の講座で、受講を通じ得た内容を学生に還元していく。		
研修名：	小田原箱根健診センター現場研修	連携企業等：	小田原箱根健診センター
期間：	2023年度	対象：	教員
内容	現業の医療機関にて、超音波検査（心臓から表在等）検査を行い、得た技能を学生指導に活かしていく。		
研修名：	タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会	連携企業等：	所管地区臨床検査技師会等
期間：	2023年度	対象：	教員
内容	臨床検査技師の業務拡大に伴う指定講習を受講し、学生教育、カリキュラム構成に取り入れる。WEBによる開催。		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針
・実践的な職業教育を目的とした教育活動その他の学校運営について、社会のニーズを踏まえた目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さについて評価・公表することにより、学校として組織的・継続的な改善を図る。
・生徒、保護者、高等学校等、関係団体に適切な説明責任を果たすとともに、学校関係者に教育活動その他学校運営について理解を得る。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	①教育理念・教育目的・育成人材像は明確に定められているか ②学校における職業教育の特色は明確になっているか ③教育理念・教育目的・育成人材像が生徒・保護者等に周知されているか
（2）学校運営	①教育方針や教育目標等に沿った運営方針が策定されているか ②運営方針に沿った事業計画（人事・財務・教務）が策定されているか ③運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか ④人事・給与に関する制度が整備してあり有効に機能しているか ⑤業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ⑥教育活動に関する情報公開が適切になされているか ⑦情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか
（3）教育活動	①教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ②修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ③教育理念・到達目標に沿った教育課程は体系的に編成しているか ④講義及び実習に関するシラバスは作成されているか ⑤学生によるアンケート等で、適切に授業評価を実施しているか ⑥職業教育に関する外部関係者からの評価を取り入れているか ⑦キャリア教育を実施しているか ⑧成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準を明確化し、適切に運用しているか ⑨資格取得の指導体制が整備され、適切に運用されているのか ⑩人材育成目標の達成に向けて授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ⑪関連分野における優れた教員を確保するための活動が行われているか ⑫先端的な知識・技能等を修得するための研修や教職員の指導力育成など資質向上の取組が行われているか ⑬教員の組織体制が整備され、適切に運用されているのか
（4）学修成果	①就職率の向上が図られているか ②資格取得率の向上が図られているか ③入学者に対する卒業率はどうか ④実習委託をする場合、その目的、要望事項等及びそれに対する評価項目の依頼を明確にしているか ⑤インターンシップについて、依頼先の担当者と十分なコミュニケーションをとり、依頼した評価法どおりに評価されているか
（5）学生支援	①進路・就職に関する支援体制は整備され、学生や保護者に周知されているか ②学生相談に関する体制は整備されているか ③学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか ④学生の健康管理を担う組織体制はあるか ⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか ⑥学生の生活環境への支援は行われているか ⑦保護者との連携は適切か ⑧卒業生への支援体制はあるか ⑨社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか ⑩高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか

(6)教育環境	①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ②実習室の機器・備品は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ③学校施設・機器備品等が定期的に管理・点検されているか ④図書室及びコンピュータが利用できる環境を設置しているか ⑤防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	①高等学校に対する情報提供等の取組が行われているか ②学生募集活動は、適正に行われているか ③学生納付金は妥当なものとなっているか、入学辞退者に適正な取扱いを行っているか ④生徒募集の効果と実績を検証しているか
(8)財務	①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ③予算及び計画に基づき適正な執行管理を行っているか ④財務について会計監査が適切に行われているか ⑤財務情報の公開の体制準備はできているか
(9)法令等の遵守	①法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ③自己評価の実施と問題点改善に努めているか ④自己評価結果を公開しているか ⑤学校関係者評価を実施して評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか

(3)学校関係者評価結果の活用状況

嘱託職員(医療機関現場経験者)が多く在籍しており、現場経験を教育に活かせるというメリットはあるが、将来における学園(学科)の世代交代を考慮すると、もう少し若手教員の採用を増やし、定着できるように取り組んでいく。また、外部委員より、国家試験合格率について指摘があり、現在、学科目標としている全員卒業・国家試験合格は達成できていないため、今後は教員側が「どこに問題があるのか、何ができていないのか」を常に把握し、学力不足の生徒には個別に対応を図っていきたい。さらに外部委員より、不合格の既卒生に対して、卒後3年以内は再受験対策として強制的に来校させ、授業を受講させるか、オンライン・録画配信が視聴できるような取り組みをするよう意見があった(これらの取り組みを実施している養成所がある)。学園としては現在、希望者には聴講制度、模試受験の申込を受付ているが、今後は更に手厚いフォローを再検討する必要性がでてきた。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

#REF!

名　前	所　　属	任期	種別
成田和順	関東労災病院　臨床検査科	2023年6月1日～2024年5月31日	企業
田爪正気	株式会社ベネクス　顧問	2023年6月1日～2024年5月31日	企業
山﨑　翼	平塚市消防本部	2023年6月1日～2024年5月31日	企業
平野　貢	生命同窓会副会長　卒業生代表	2023年6月1日～2024年5月31日	卒業生
秋元幸子	父母の会　会長	2023年6月1日～2024年5月31日	保護者
浅野美佳子	父母の会　副会長	2023年6月1日～2024年5月31日	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

学園ホームページによる公開

URL://www.sho-oh.ac.jp/

公表時期:毎年6月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

・学校に関する教育活動の状況や内容及び資格取得など、学校全体の状況が把握できるような情報提供をすることにより、関連業界等との連携・協力を図り、教育活動の改善や社会的信頼を得る。

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	・学校の教育・人材養成の目標及び教育計画、特色 ・校長名、所在地、連絡先、理事名簿等 ・学校の沿革、歴史
（2）各学科等の教育	・入学者に関する受入れ方針及び入学者数、収容定員 ・カリキュラム、時間割、使用する教材など授業方法及び内容 ・学習の成果として取得を目指す資格、合格を目指す検定等 ・資格取得、検定試験合格等の実績 ・卒業後の進路
（3）教職員	・教職員数
（4）キャリア教育・実践的職業教育	・実習・実技等の取組状況
（5）様々な教育活動・教育環境	・学校行事への取組状況
（6）学生の生活支援	・学生支援への取組状況
（7）学生納付金・修学支援	・学生納付金の取扱い ・活用できる経済的支援措置の内容等
（8）学校の財務	・貸借対照表、収支計算書、、財産目録、事業報告書、監査報告書
（9）学校評価	・自己評価、学校関係者評価の結果

（3）情報提供方法

学園ホームページによる公開

URL：//www.sho-oh.ac.jp/

公表時期：毎年6月1日

授業科目等の概要（現１・２年生が履修）

（医療専門課程臨床検査技術学科）２０２３年度

現３年生は当カリキュラムでは実施していません。
※３年次科目の[学期]は具体的に決定していないため未記載となっています。

	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○			化学	化学の基礎知識を理解した後、日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての内容を取扱い、主体的に理解し学ぶ。また、この科目で学んだ事柄が、日常生活や社会を支えている科学技術と結びついている内容を取扱い、このことを理解し学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	
	○			化学演習	実験をするには器具・機材および試薬が必要となり、その準備は必要不可欠なものである。この科目では実習に必要な実験器具や機器の使い方および試薬調製法を修得する。	1前	30	1		○		○		○		
	○			生物学	生命とは何かということを理解するために、生命体の構成について学ぶ。さらに、生命の基本単位である細胞について、その構造と機能を理解するとともに生体の増殖機構・生体防御機構について学ぶ。生物学を学ぶ上で必要となる顕微鏡について、実際の細胞を観察しながら正しい取扱い方について学ぶ。	1前	30	2	○			○		○		
	○			文章表現学	文章構成方法の基礎を習得させる。文章表現の重要性を理解させる。作文・小論文の作成方法を習得させる。	1前	15	1	○			○		○		
	○			心理学	講義、心理テストを通して、心の働きについて学びながら、自己理解、他者理解を深め、コミュニケーションスキルを身につける。	1前	30	2	○			○			○	
	○			生命倫理学	よき医療人となるためには、知識の習得ばかりでなく、豊かな感性を磨き、生命や尊厳への深い造詣と、病や障害とともに過ごす人々への理解を育む必要がある。本授業では、現実社会における医療倫理の諸課題に取り組むことで、学習への関心・意欲を高めると同時に、友人たちとの意見交換を通して、他者を思いやる心、自己を大切にする気づきの機会を提供する。	1前	30	2	○			○			○	

○			医療英語	医療分野で必要となる医療用語を実用会話の中で学習する。教科書に沿って論文の書き方、文献の読み方を学ぶ。医療英語を通して「読む、書く、聞く、話す」の英語４つの運用能力を高め、communication能力を養う。	1前	30	2	○			○			○	
○			キャリアデザイン学	仕事をする意義、心構え・姿勢を理解させる。 仕事をする上での他者との関わり方を認識させる。	1後	15	1	○			○		○		
○			コミュニケーション学	他者と職場・社会との関わり方を理解させる。自己表現の仕方を理解させる。	1前	15	1	○			○		○		
○			生理解剖学1	人体の正常な構造と機能を理解するため、細胞、組織、運動器、脈管系、呼吸器系、消化器系、泌尿・生殖器系について学び、体のしくみとはたらきを理解する。	1通	50	2	○			○			○	
○			生理解剖学2	人体の神経系、感覚器系正常な構造と機能を理解するため、中枢神経系、末梢神経系に関わる各種科目について学び、体のしくみとはたらきを理解させる。	1後	25	1	○			○			○	
○			生理解剖学実習	顕微鏡による組織学的な実習により人体における主要臓器の基本的構造と機能を学ぶ。また、顕微鏡による標本観察により観察眼を養い、さらにスケッチすることにより理解を深める。また、生体はどのように機能しているのかを理解するために感覚器系を用い目視で観察する大切さを学ぶ。また、生体信号を検査機器に記録することが臨床検査技師の重要な仕事であることを理解する。	1後	45	1			○	○		○	○	
○			栄養学	人間における栄養の意義、成長発達や生命維持に必要な各種栄養素の機能、消化・吸収・代謝，ライフステージに伴う身体的・生理的特徴と栄養、疾病と食事・栄養管理について解説する。	1後	25	1	○			○			○	
○			生化学	生化学は生物を構成する物質の化学であり、生命・病気の理解に必須の科目である。生体高分子（蛋白質・糖質・脂質）やその構成単位の物性（化学構造と機能）と代謝（異化と同化）について理解し、生命現象の化学を物質代謝の面から説明する。	1通	50	2	○			○			○	
○			生化学実習	基本的なガラス器具の取扱、試薬調製法、希釈法、分析方法などについて学ぶ。	1後	45	1			○	○			○	
○			臨床検査学総論	各検査材料（検体）の正しい取り扱いや検査法を理解することで、医療現場における臨床検査技師の役割と使命、そして臨床検査技師に必要な基本事項やチーム医療等、医療の現場で実際に役立つ知識を幅広く身に付ける基礎を学ぶ。	1前	25	1	○			○		○		
○			血液学	血液の細胞成分である赤血球・白血球・血小板の役割、止血凝固反応を理解する。免疫の概念と免疫系について理解する。	1後	25	1	○			○		○		

	○			免疫学	免疫のしくみ（担当細胞・抗原と抗体・補体・サイトカイン）について学び、臨床免疫学の基礎を習得する。	2前	25	1	○			○			○	
	○			薬理学	医療は単独で行われるものではなく、様々な業種がチーム医療を担っている。医療分野では様々な知識が必要となる。そのなかで薬・薬物の働きを理解するためには、薬物全般の基礎的な知識が必要となる。また薬物と生体との関わり方を理解する必要もある。そのための学習を行う。	1前	25	1	○			○			○	
	○			分子生物学	遺伝現象を遺伝子の働き（遺伝子発現）としてとらえて理解するために、遺伝子の本体である核酸の物理化学的性質、遺伝情報の流れ（セントラルドグマ）である転写、翻訳、複製について学ぶ。また、分子生物学を応用した遺伝子検査法の基本原理を理解する。	1後	25	1	○			○			○	
	○			公衆衛生学	公衆衛生学の概念、方法論の基礎を学ぶ。一次予防、二次予防および三次予防の理論に基づき環境諸要因が健康あるいは社会生活に及ぼす影響について理解を深め、疾病予防や健康増進へのアプローチの方法等、保健予防・医療に関する知識を習得する。	1前	25	1	○			○		○		
	○			保健医療福祉総論	心身ともに健康な生活を送るためには、からだ・こころ・そして周囲の環境が適切なバランスを保持している必要がある。人は社会的な存在であり、単に一個の生物としてのみ理解する事は不可能である。医療の歴史を鑑みることにより、現在の医療や人を取り巻く環境を理解し、医倫理的問題についての視点を学ぶ。	1後	25	1	○			○			○	
	○			チーム医療概論	医の倫理、医療体制を理解し、チーム医療における臨床検査技師の役割を学ぶ。医療現場で、医師、看護師、薬剤師等の他職種と互角に活躍出来る臨床検査技師に成るためには、医療のマクロからミクロまでの理解が必要。医療界の様々な法律や規定とその仕組みからはじまり、各種医療機関が個々に抱える問題点等についても解説し、臨床検査技師がどこに就職しても活躍出来る様にノウハウを伝授する。在宅で受けられるサービス等、各種支援を学び医療従事者としての見識を深める。	1通	25	1	○			○		○	○	
	○			公衆衛生学特論	予防医学と検査の関連、並びに疫学的分析法の理論と技術を学習する。実例を用い、各種環境要因と健康との関連を考察する。保健・医療・福祉の制度を理解する。	3	25	1	○			○				
	○			医用工学	電気工学の基礎、医用電子回路の作動、生体電気信号検出法､ME機器の電気安全、ME機器への応用について理解できるようにする。	1前	25	1	○			○		○		
	○			医用工学実習	測定器（テスタ、オシロスコープ等）の操作法を学び特性や特徴を理解する。また、パソコンによるOfficeを中心にソフトウェアの使用法や表現方法について習熟し理解する。	1後	45	1			○	○		○		

○			医用工学特論	過去の20年間のME関連の国家試験問題を解説、ME関連の知識を正しく理解する。	3	25	1	○			○				
○			検査機器学	臨床検査機器の種類と構造およびその原理、使用方法、保守管理等を習得する。臨床検査で使用頻度の高い検査機器については実践で応用できるところまで理解する。	1前	25	1	○			○		○		
○			情報処理科学	情報科学の基礎知識やコンピュータシステム及び情報リテラシーを学習する。	1前	25	1	○			○		○		
○			臨床医学総論	問診から診断の確定までの過程を理解する。各検査項目の意味を理解し、疾病との関連を理解する。代表的疾患の特徴を理解し、その疾患に対する検査項目を理解する。代表的な検査の疾病に対するかかわり方、基準値、関連検査項目などを理解する。	1通	50	2	○			○			○	
○			病理学	人体は約37兆個の細胞によって成り立っており、それらの細胞が正常に働き、恒常性を維持しているが、何らかの原因でその恒常性が維持できなくなった状態を疾病（病気）という。その病気の原因、発生の仕組み、経過、転帰などを学び、１つ１つの病気について理解する。	1後	25	1	○			○			○	
○			病態解析演習	人体は約37兆個の細胞によって成り立っており、それらの細胞が正常に働き、恒常性を維持しているが、何らかの原因でその恒常性が維持できなくなった状態を疾病（病気）という。その病気の原因、発生の仕組み、経過、転帰などを学び、１つ２つの病気について理解する。	2後	25	1		○		○			○	
○			臨床検査医学総論	コメディカルの一翼を担う臨床検査技師として、各種疾患の病態状況を統計的に学び、検査結果を正しく評価する能力を養うとともに、より高度な検査データの提供ができる能力を学ぶ。	3	50	2	○			○				
○			臨床検査医学特論	演習問題を用いて疾患の成り立ちや病態を体系的に学ぶ。臨床検査は科学的根拠に基づいた医療（EBM：evidence based medicine）を実践するうえで不可欠な診療手段であることを認識し、検査と疾患との関連性を科学的に解析する方法を習得する。	3	25	1	○			○				
○			臨床血液学	赤血球、白血球、血小板の正常形態、構造、およびその生理学的機能について学ぶ。各血球の計数検査法や形態の観察法について学び、検査結果（細胞数・割合や形態）について正常所見と異常所見との判別を理解して、種々の血液疾患との関連について学習する。	2通	50	2	○			○			○	
○			臨床血液学実習	血液や止血機構の基礎、検査法の原理や技術，血球の形態的特徴、臨床的意義などを学び、実際に検体を用いて測定・観察を行う。	2通	90	2			○	○			○	
○			血液検査学特論	演習問題を用い血液学の基礎と血液検査と疾患との関連性を理解する。	3	25	1	○			○				

	○			病理組織細胞学	まず病理検査業務を知ってもらい、その業務を行うために必要な知識の習得を目指す。特に組織診断と細胞診断の特徴を理解し、各種疾患との関連などを理解できるようにする。	2通	50	2	○			○			○	
	○			病理組織細胞学実習	病理検査学実習に興味を持つために、人体の正常臓器、疾患臓器を用い、固定法から各種染色法などの顕微鏡標本作製法について取得する。また、作製した標本からスケッチを通して組織学的、細胞学的知識を習得する。	2通	90	2			○	○			○	
	○			病理検査学特論	病理組織標本の作製法（パラフィン包埋材料、凍結の作製法）について演習問題を用い解説、講義する。また各種染色についての写真の見方、正常と疾患の組織像について解説、演習問題を通して判定能力を習得する。	3	25	1	○			○				
	○			一般検査学	医療従事者として臨床検査技師の役割及び心構えとは何かをまず理解しなければならない。その上で主に尿、便、髄液などの検体を用いた「一般検査」を学ぶ。	1前	25	1	○			○		○		
	○			一般検査学実習	尿の生成過程及び尿中成分の意義を学び実際に尿検体を用いて様々な検査を体験する。講義内容に準じて行うが検査手技、標本の観察を通し確実に身につける。講義に準じて行うが、出来る限り多くの材料による検査の手技および標本の観察を実際に体験することによって、自分自身で確実に身につける。	1通	45	1			○	○			○	
	○			一般検査学特論	習問題を用い検査管理の基礎、および一般・寄生虫検査と疾患との関連性を理解する。	3	25	1	○			○				
	○			寄生虫検査学	「寄生虫学」は「医動物学」とも称され、人体に病害を与える多種多様の動物と疾病との関係を理解する。寄生虫学の場合、微生物より比較的大きいものが対象となるため、その形態を確認し、生活史を学ぶことによって人への感染を理解する。交通手段の発達にともない持ち込まれる新しい寄生虫症（新興寄生虫症）あるいは、一旦影を潜めた寄生虫症の繰り返し（再興寄生虫症）、さらにはこれらの原因ともなる日和見感染による寄生虫症などを理解する。	1前	25	1	○			○			○	
	○			臨床化学	臨床化学は疾患の診断，治療方針の決定または予後の判定など臨床目的に応じた生体情報を提供する学問および技術であり、分析化学，機器分析学，病態生化学，臨床医学を背景に進歩した学問について、糖質，蛋白質，酵素，脂質などを歴史的背景，体内代謝と臨床診断的意義，測定原理について、分析機器の取り扱い、精度管理を加味して理解する。	2通	50	2	○			○		○		
	○			臨床化学実習	患者の病因や病態を明らかにする手段の一つとして臨床化学的測定法がある。各測定項目の体内代謝と臨床診断的意義、測定原理への干渉、生理的変動、精密度と正確度について検討しながら実習を行い習得する。	2通	45	1			○	○		○		

○			臨床免疫学	免疫システムの原理は「自己と非自己の選別」である。このことが病原体から身を守る「感染防御」や他人の臓器を移植する際に問題になる「拒絶反応」につながる。さらにこのシステムが過剰に反応することで自らを攻撃してしまう危険もある。ここでは、免疫システムの基本を学び、疾患との関係とそれに関連する検査について理解することを目標とする。	2通	25	1	○			○			○	
○			臨床免疫学実習	・検査に必要な器具・機器の操作法を習得する。・病態と免疫系との関係を理解し、その検査理論を習得する。・各免疫検査の原理を理解し、検査技術を習得する。・輸血検査を行う上で必要な基本手技及び、ABO・Rh血液型検査、抗グロブリン試験、不規則抗体スクリーニング、抗体解離試験、抗体同定、交差適合試験について理解し、手技を習得する。	2通	45	1			○	○			○	
○			生化免疫検査学特論	演習問題を用いて、生体試料に含まれる化学成分の免疫学的・化学的検査法について学び、疾患との関連性を学ぶ。	3	25	1	○			○				
○			遺伝子・染色体検査学演習	遺伝子検査とはどのような検査か学ぶ。遺伝子の構造と機能について理解する。変異の種類や遺伝子疾患について学ぶ。遺伝子の検出法や遺伝子診断技術、染色体検査とはどのような検査か学ぶ。	2通	60	2		○		○			○	
○			輸血・移植検査学1	輸血療法に必要な基礎知識（輸血療法の目的、血液型の基礎知識、歴史、血液製剤の内容・製造方法と適正使用について学ぶ	2前	25	1	○			○			○	
○			輸血・移植検査学2	輸血副作用の原因・内容・防止対策、輸血事故防止対策について学ぶ。臓器移植、造血幹細胞移植、移植前検査について学ぶ。	2後	25	1	○			○			○	
○			輸血検査学実習	輸血検査を行う上で必要な各種検査（ABO・Rh血液型判定、不規則抗体スクリーニング、交差適合試験）を理解し、検査技術を習得する。また、直接抗グロブリン試験の意義を理解し、検査技術を習得する。	2通	45	1			○	○			○	
○			輸血検査学特論	症例問題を用い輸血療法に必要な血液型検査・適合血の選択・異常反応の考え方・造血幹細胞移植について理解する。	3	25	1	○			○				
○			微生物学	○感染症を臓器別に捉え、原因微生物の特徴、 感染経路，発症予防（滅菌，消毒）を学ぶ。○日和見感染など宿主の因子が影響する感染症を理解し、原因微生物の特徴、感染経路を学ぶ。○微生物感染後の感染防御反応（免疫）について学ぶ。○ 感染症の診断，治療(化学療法）に必要な検査法（染色法，培養法）について学ぶ。	1通	50	2	○			○			○	

	○			微生物学実習	微生物とはどのようなものか、また微生物を取扱う上で必要な器具の使用方法、無菌操作、一般染色、培地作成法・操作方法などについて習得する。	1後	45	1	○			○		○		
	○			臨床微生物学	臨床微生物学（寄生虫学除く）は細菌，ウイルス．真菌と広範で検査法は多岐にわたる。講義では医療現場での臨床微生物検査技術実践に必須となる基礎知識を身に付ける。	2通	50	2			○	○			○	
	○			臨床微生物学実習	臨床材料から分離される頻度の高い菌種や重要な菌種について、その分離培養法および同定法を習得する。さらに、細菌の薬剤感受性試験法を理解する。	2通	90	2			○	○		○		
	○			微生物検査学特論	演習問題を用い、微生物学の基礎を確認し、微生物検査と感染症の関係を理解する。	3	25	1	○			○				
	○			臨床生理学1	循環器機能検査と呼吸機能検査について、解剖学的な臓器の構造と機能　と検査の基礎的要素、臨床的意義、正常所見、異常所見解析の要点等を学習する。	2通	50	2	○			○			○	
	○			臨床生理学2	神経・筋機能検査、感覚器機能検査について、解剖学的な臓器の構造と機能　と検査の基礎的要素、臨床的意義、正常所見、異常所見解析の要点等を学習する。	2通	50	2	○			○			○	
	○			臨床生理学実習	安全性と信頼性を確保するために機器の構造や使用法、保守管理を正しく理解し検査手技を習得し、検査する目的や意義を理解する。また、結果を正しく解析し評価し相互に検査し合うことで被検者（患者さん）の気持ちを理解し、コミュノケーションの大切さを学ぶ。	2通	90	2			○	○			○	
	○			画像検査学	超音波検査で描出される画像から得られる情報はそのまま医療としての診断・治療に繋がることを認識して、超音波の物理的な性質を知り、解剖学や走査法、機器操作等の基礎を身につけ、さらにアーチファクトとの判別を学ぶ。	2通	25	1	○						○	
	○			画像解剖学	医療画像情報を構成する単純X線、CT、MRI、RIの画像構成原理の基本を学習する。RIについては基本的な原理と生体反応を学習する。近年では画像診断機器の多様化が進んでいるが、特にMRIについてその理論と断層画像の解剖学的意味を学習する。	3	25	1	○			○				
	○			臨床生理学特論	生理学の基礎から整理し病態から疾患を理解できるように統合的にアプローチし実力を養う。結果の意義や評価を読み解く学習は、国家試験合格に向けてのみならず、医療人として実践力をも身につける方法である。	3	50	2	○			○				

	○			医療統計学	統計学の中でも医療分野における統計解析について、医療統計とはどういうものか、統計的手法を用いることの有効性および意義とは何かを、演習問題等を解くことによって理解を深める。	1後	25	1	○			○		○		
	○			検査総合管理学	臨床検査技師の責任及び業務の範囲を理解し、検査の精度保証（精度管理）を学ぶ。	2	25	1	○						○	
	○			臨床検査総合演習	演習問題を用い検査と疾患との関連性を多角的に解析し理解する。	3	##	6		○		○				
	○			医療安全管理学1	チーム医療を担う一員として臨床検査技師に求められる業務を理解する。ヒューマンエラーや医療事故防止の具体的なリスクマネージメントを学ぶ。標準予防策を身につけ、適切な検体採取法を理解する。	1後	25	1	○			○			○	
	○			医療安全管理学2	検体採取に伴う危険因子を認識し、適切に検体採取ができる能力を身につける。合併症の発生時に適切に対処できる能力を身につける	3	25	1	○			○				
	○			臨地実習前技能実習	臨地実習を遂行するに必要な基本的かつ実践的知識および技術を習得する。病院における検査部門の運営法や患者さんへの対応法を学び、医療チームの一員としての自覚を促し責任感を養う。	3	40	1			○	○				
	○			臨地実習	学内で習得した知識や技術が、実際の臨床の場において、どのような形で実践されているかを学ぶなかで、医療人としての心構え、医療サービスの精神を養う	3	440	11			○		○			○
合計					72 科目			3110 単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	全授業科目を履修し修得すること	１学年の学期区分	2 期
履修方法：		１学期の授業期間	15 週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要（現３年生が履修）

（医療専門課程臨床検査技術学科）２０２３年度

現１・２年生は当カリキュラムでは実施していません。
※印の項目は具体的に決定していないため、一部未記載となっています。

	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			心理学	講義、心理テスト、実習などを通して、こころの働きについて学びながら、　自己理解、他者理解を深め、コミュニケーションスキルを身につける。	1前	30		○			○				
2	○			倫理学	一般的な「思考」に伴う問題点や、その際に留意すべき点などを講義する。それらを基に、医療倫理上の幾つかの課題を設定し、自ら調べ資料を読み、問題点を設定して、原稿を作成した上で発表する。さらに理想的には、有意義な質疑・討論の仕方を身につけ、自らの考え方を再考し、より良いものを目指す。	1前	30		○			○				
3	○			一般化学	化学の基礎知識を理解した後、我々の生活に密着した、衣・食・住に関連する化学的な知識を習得し、さらに最新の化学技術および環境化学などについて学ぶ。	1通	60		○			○				
4	○			一般化学演習	実験をするには器具・機材および試薬が必要となり、その準備は必要不可欠なものである。この科目では実習に必要な実験器具や機器の使い方および試薬調製法を修得する。	1前	30			○		○				
5	○			生物学	生命とは何かということを理解するために、生命体の構成成分について学ぶ。さらに、生命の基本単位である細胞について、その機能と働きを理解する。また、細胞間の認識機構についても学び、どのように多細胞生物としての個体が成り立ち、生命活動が営まれているのか理解する。	1前	30		○			○				
6	○			医療英語	臨床検査技師に必要な”Laboratory English”の会話力を身につける。具体的には(i)臨床検査のすべての分野を想定しそこで使われる会話例を取り上げこれを学生同士が組になってこれを練習する。ひいては臨床検査に必要な事柄を英語で表現・説明出来るようになる。(ii)例文に出てきた内容に関し英語での質疑応答の練習をし、これが説明出来るようになる。	1前	30		○			○				

7	○			保健体育	・自他の健康や体力の保持増進を図る。・自己実現や自己成長、地域文化の創造を図り、礼儀作法やマナー等の基本的生活習慣を身に付ける。・忍耐力や精神力を育成する。・社会性や協調性を育成する。	1前	30				○		○			
8	○			生理解剖学	人体の正常な構造と機能を理解するため、一年を通じて細胞、組織、運動器、脈管系、神経系、呼吸器系、消化器系、泌尿・生殖器系について学び、体のしくみとはたらきを理解させる。	1通	75		○			○				
9	○			生理解剖学実習	生理解剖学実習では２つの大項目に従い学習する。１つは顕微鏡による組織学的な実習で、人体における主要臓器の基本的構造と機能を学ぶ。また、顕微鏡による標本観察により観察眼を養い、さらにスケッチすることにより理解を深める。２つ目は「生体はどのように機能しているのか」解明するために眼や耳や手、そして足を実際に動かして目視で観察する大切さを学ぶ。また、それらの「生体信号を検査機器に記録」することが臨床検査技師の重要な仕事であることを理解する。	1後	45				○	○				
10	○			生化学	生化学は生物を構成する物質の化学であり、生命・病気の理解に必須の科目である。　生体高分子（蛋白質・糖質・脂質）やその構成単位の物性（化学構造と機能）と代謝（異化と同化）について理解し、生命現象の化学を物質代謝の面から説明する。	1通	50		○			○				
11	○			生化学実習	基本的なガラス器具の取扱、試薬調製法、希釈法、分析方法などについて学ぶ。	1後	45				○	○				
12	○			血液学	血液の細胞成分である赤血球・白血球・血小板の役割、血液疾患と血球形態の関係を理解する。抗原、抗体、補体の化学的構造や機能を理解する。	1後	25		○			○				
13	○			微生物学	人は多種、多様な 微生物と共に生活している。それらの一部は人に感染を引き起こす可能性があることを理解する。そこで微生物の構造、代謝、増殖、などを理解した上で感染性、病原性を理解する。さらにはこれらの微生物を治療する基礎となる化学療法剤の作用機序及び薬剤耐性を理解する。総合的にはこれら微生物の健常人への感染及び基礎疾患を有する易感染体への感染をを理解し説明出来るようになる。	1通	50		○			○				
14	○			分子生物学	遺伝現象を遺伝子の働き（遺伝子発現）としてとらえて理解するために、遺伝子の本体である核酸の物理化学的性質、遺伝情報の流れ（セントラルドグマ）、遺伝子の転写、翻訳、複製について学ぶ。さらには、形質転換実習を行い、遺伝子発現について理解を深める。	1後	25		○			○				

15	○			薬理学	医療は単独で行われるものではなく、様々な業種がチーム医療を担っている。医療分野では様々な知識が必要となる。そのなかで薬・薬物の働きを理解するためには、薬物全般の基礎的な知識が必要となる。また薬物と生体との関わり方を理解する必要もある。そのための学習を行う。	1前	25		○			○				
16	○			微生物学実習	実験室レベルで実習可能な項目に的を絞り、感染症の予防と感染体の取扱についての基本を理解し実践出来るようにする。	1後	45				○	○				
17	○			公衆衛生学	公衆衛生学の概念，方法論の基礎を学ぶ。一次予防，二次予防および三次予防の理論に基づき，環境諸要因が健康あるいは社会生活に及ぼす影響について理解を深め，疾病予防や健康増進へのアプローチの方法等，保健予防・医療に関する知識を習得する。	1前	25		○			○				
18	○			保健医療福祉総論	心身ともに健康な生活を送るためには、からだ・こころ・そして周囲の環境が適切なバランスを保持している必要がある。人は社会的な存在であり、単に一個の生物としてのみ理解する事は不可能である。医療の歴史を鑑みることにより、現在の医療や人を取り巻く環境を理解し、医倫理的問題についての視点を学ぶ。	1後	25		○			○				
19	○			医学概論	古代医学の誕生から近代医学誕生までの歴史の変遷を学び、医療従事者の一員として臨床検査技師の成り立ちから今日までの臨床検査の歴史を学び､臨床検査技術の将来の展望と検査技術の発展について学ぶ。	1前	25		○			○				
20	○			公衆衛生学特論	予防医学と検査の関連、並びに疫学的分析法の理論と技術を学習する。実例を用い、各種環境要因と健康との関連を考察する。保健・医療・福祉の制度を理解する。	3後	25		○			○		○		
21	○			医用工学	電気工学の基礎、医用電子回路の作動、生体電気信号検出法､ME機器の電気安全、ME機器への応用について理解できるようにする。	1前	25		○			○				
22	○			医用工学実習	測定器（テスタ、オッシロスコープ､発信器等）の操作法を習得する。各測定項目についてグラフ化し、その特性、特徴を考察しME機器にどのように応用されているかを理解する。	1後	45				○	○				
23	○			情報処理科学	コンピュータ活用を中心として情報科学の基礎を学習する。さらに例年の国家試験出題問題を参考にし、それらに正答できる力をつける。	1前	25		○			○				
24	○			医用工学特論	過去の２０年間のME関連の国家試験問題を解説、ME関連の知識を正しく理解する。	3後	25		○			○		○	○	

25	○			臨床医学総論	臨床検査と疾患との関連性を習熟するために、本授業では臨床検査技師が理解しておくべき疾患、特に高頻度に見られる重要疾患について、成因と病態生理、症状、身体所見、臨床検査所見、診断、治療、経過、予後などを理解する。	1通	50		○			○				
26	○			病態解析演習	問診から診断の確定までの過程を理解する。各検査項目の意味を理解し、疾病との関連を理解する。代表的疾患の特徴を理解し、その疾患に対する検査項目を理解する。代表的な検査の疾病に対するかかわり方、基準値、関連検査項目などを理解する。	2後	25			○		○				
27	○			病理学	人体は約60兆個の細胞によって成り立っており、それらの細胞が正常に働き、恒常性を維持しているが、何らかの原因でその恒常性が維持できなくなった状態を疾病（病気）という。その病気の原因、発生の仕組み、経過、転帰などを学び、１つ１つの病気について理解する。	1後	25		○			○				
28	○			臨床検査医学総論	コメディカルの一翼を担う臨床検査技師として、各種疾患の病態状況を統計的に学び、検査結果を正しく評価する能力を養うとともに、より高度な検査データの提供ができる能力を学ぶ。	3前	50		○			○		○	○	
29	○			病理組織細胞学	まず病理検査業務を知ってもらい、その業務を行うために必要な知識の習得を目指す。特に組織診断と細胞診断の特徴を理解し、各種疾患との関連などを理解できるようにする。	2前	25		○			○				
30	○			病理組織細胞学実習	病理検査学実習に興味を持つために、人体の正常臓器、疾患臓器を用い、固定法から各種染色法などの顕微鏡標本作製法について取得する。また、作製した標本からスケッチを通して組織学的、細胞学的知識を習得する。１．塗抹・固定・染色の注意点を理解し、診断に適した良好な標本を作製する。２．婦人科、呼吸器、体腔液、泌尿器の正常細胞と主な疾患の細胞学的特徴を、鏡検実習を通し理解する。	2通	90				○	○				
31	○			臨床血液学	・赤血球、白血球、血小板の正常形態、構造、およびその生理学的機能について学ぶ。・各血球の計数検査法や形態の観察法について学び、検査結果（細胞数・割合や形態）について正常所見と異常所見との判別を理解して、種々の血液疾患との関連について学習する。・止血機構に関与する血管、血小板、凝固･線溶の機序および止血に関する検査について学び、止血検査での血小板，凝固，線溶異常と疾患との関連について学習する。	2通	50		○			○				
32	○			臨床血液学実習	血液や止血機構の基礎，検査法の原理や技術，血球の形態的特徴，臨床的意義などを学び、実際に検体を用いて測定，観察を行う。	2通	90				○	○				

33	○			寄生虫検査学	「寄生虫学」は「医動物学」とも称され、人体に病害を与える多種多様の動物と疾病との関係を理解する。寄生虫学の場合、微生物より比較的大きいものが対象となるため、その形態を確認し、生活史を学ぶことによって人への感染を理解する。交通手段の発達による輸入寄生虫症による新しい寄生虫症（新興寄生虫症）あるいは輸入にもよるが、一旦影を潜めた寄生虫症の繰り返し（再興寄生虫症）、さらにはこれらの原因ともなる日和見感染による寄生虫症などを理解する。	1前	25		○			○				
34	○			病理検査学特論	人体の臓器・組織・細胞についての働きおよび形態的・組織学的特徴を学ぶ。疾患の成因及び疾患時の臓器・組織・細胞などの特徴を理解する。病理組織標本の作製法（パラフィン包埋材料、凍結の作製法）について演習問題を用い解説、講義する。また各種染色についての写真の見方、正常と疾患の組織像について解説、演習問題を通して判定能力を習得する。	3後	25		○			○		○	○	
35	○			血液検査学特論	演習問題を用い血液学の基礎と血液検査と疾患との関連性を理解する。	3後	25		○			○		○		
36	○			一般検査学	医療従事者として臨床検査技師の役割及び心構えとは何かをまず理解しなければならない。その上で主に尿、便、髄液などの検体を用いた「一般検査」を学ぶ。	1前	25		○			○				
37	○			一般検査学実習	尿の生成過程及び尿中成分の意義を学び実際に尿検体を用いて様々な検査を体験する。講義内容に準じて行うが検査手技、標本の観察をとおし確実に身につける。講義に準じて行うが、出来る限り多くの材料による検査の手技および標本の観察を実際に体験することによって、自分自身で確実に身につける。	1通	45				○	○				
38	○			臨床化学	臨床化学は疾患の診断，治療方針の決定または予後の判定など臨床目的に応じた生体情報を提供する学問および技術であり、分析化学，機器分析学，病態生化学，臨床医学を背景に進歩した学問である。糖質，蛋白質，酵素，脂質などを歴史的背景，体内代謝と臨床診断的意義，測定原理について、分析機器の取り扱い、精度管理を加味して理解する。	2通	50		○			○				

39	○			臨床化学実習	患者の病因や病態を明らかにする手段の一つとして臨床化学的測定法がある。診断を正確かつ効率的に行うためには微量検体で正確で再現性のある結果を迅速に診療側に提供する必要がある。各測定項目の体内代謝と臨床診断的意義、測定原理への干渉、生理的変動、精密度と正確度について検討しながら実習を行い習得する。遺伝子検査技術を習得するために、自分の血液細胞からDNAを抽出し、それを用いてアルデヒド脱水素酵素遺伝子（ALDH遺伝子）における一塩基多型(SNP)をPCR-RFLP法で解析する。	2通	90				○	○				
40	○			分析検査学	検査機器学、臨床化学、精度管理学および各専門科目を網羅し、検査について総合的に考えることのできる能力を習得する。これと共に職業に関する倫理感を高める。	3前	25		○			○		○	○	
41	○			遺伝子・染色体検査学	＜遺伝子検査＞　遺伝子検査とはどのような検査か学ぶ。①遺伝子の構造と機能について理解する。②突然変異の種類について学ぶ。③遺伝子疾患について学ぶ。④遺伝子の検出法や遺伝子診断技術について学ぶ。　＜染色体検査＞　染色体検査とはどのような検査課学ぶ。①細胞の複製と分離について学ぶ。②染色体異常の種類と原因について理解する。③染色体検査の技術について学ぶ。④造血器の染色体異常を学び遺伝子変化について理解する。⑤造血器の染色体異常と白血病の細胞形態をあわせて知識とする。⑥FAB分類、WHO分類について理解を深める。	2前	25		○			○				
42	○			精度管理学	医療事故や過誤が厳しく取り上げられる時代になっています。単純に測定値を出し、報告するのではなく、誤りのない測定値をより早く報告しなければなりません。そのために必要な学問的知識と考え方を身に付け、応用できるようにする。	3前	25		○			○			○	
43	○			一般検査学特論	演習問題を用い検査管理の基礎、および一般・寄生虫検査と疾患との関連性を理解する。	3後	25		○			○			○	
44	○			臨床化学特論	分析化学・機器分析学・病態生化学などを基盤とした「臨床化学的分析法」を習得する。①体内代謝と疾患，②測定原理，③測定結果の解析と評価　について理解する。	3後	25		○			○		○		
45	○			臨床微生物学	臨床微生物学（寄生虫学除く）は細菌，ウイルス．真菌と広範で，検査法は多岐にわたる。講義では医療現場での臨床微生物検査技術実践に必須となる基礎知識を身に付ける。更に理解度を上げるため、各講義終了後に小試験を行い，これを解く中で学生との対話を重視した内容にする。	2通	50		○			○				
46	○			臨床微生物学実習	臨床材料から分離される頻度の高い菌種や重要な菌種について、その分離培養法および同定法を習得する。さらに、細菌の薬剤感受性試験法を理解する。	2通	90				○	○				

47	○			臨床免疫学	免疫システムの原理は「自己と非自己の選別」である。このことが病原体から身を守る「感染防御」や他人の臓器を移植する際に問題になる「拒絶反応」につながる。さらにこのシステムが過剰に反応することで自らを攻撃してしまう危険もある。ここでは、免疫システムの基本を学び、疾患との関係とそれに関連する検査について理解することを目標とする。	２通	50		○			○				
48	○			臨床免疫学実習	・検査に必要な器具・機器の操作法を習得する。・病態と免疫系との関係を理解し、その検査理論を習得する。・各免疫検査の原理を理解し、検査技術を習得する。・輸血検査を行う上で必要な基本手技及び、ABO・Rh血液型検査、抗グロブリン試験、不規則抗体スクリーニング、抗体解離試験、抗体同定、交差適合試験について理解し、手技を習得する。	２通	90				○	○				
49	○			微生物検査学特論	演習問題を用い、微生物学の基礎を確認し、微生物検査と感染症の関係を理解する。	３後	25		○			○		○		
50	○			免疫検査学特論	医療に携わる臨床検査技師として必要な免疫学の知識と関連する検査の重要なポイントに特化し、国家試験合格にむけた実力を養う。	３後	25		○			○			○	
51	○			臨床生理学１	循環器機能検査と呼吸機能検査について学習する。概要は①解剖学的な臓器の構造と機能　②検査の基礎的要素　③臨床的意義　④正常所見　⑤異常所見解析の要点等である。	２通	50		○			○				
52	○			臨床生理学２	神経・筋機能検査、感覚器機能検査を学習する。概要は　①臓器の構造と機能　②検査の基礎的要素　③臨床的意義　④正常所見　⑤異常所見解析の要点等である。	２通	50		○			○				
53	○			臨床生理学実習	１．安全性と信頼性を確保するために機器の構造や使用法、保守管理を正しく理解する。２．検査手技を習得し、検査する目的や意義を理解する。３．結果を正しく解析し評価する。４．相互に検査し合うことで被検者（患者さん）の気持ちを理解し、コミュノケーションの大切さを学ぶ。	２通	90				○	○				
54	○			画像検査学	超音波検査で描出される画像から得られる情報はそのまま医療としての診断・治療に繋がることをしっかり認識しなければならない。そのために超音波の物理的な性質を知り、解剖学や走査法、機器操作等の基礎を身につけ、さらにアーチファクトとの判別を学ぶ。	２通	25		○			○				
55	○			画像解剖学	医療画像情報を構成する単純X線、CT、MRI、RIの画像構成原理の基本を学習する。RIについては基本的な原理と生体反応を学習する。近年では画像診断機器の多様化が進んでいるが、特にMRIについてその理論と断層画像の解剖学的意味を学習する。	３前	25		○			○			○	

56	○			臨床生理学特論	生理学の基礎から整理し病態から疾患を理解できるように統合的にアプローチし実力を養う。結果の意義や評価を読み解く学習は、国家試験合格に向けてのみならず、医療人として実践力をも身につける方法である。	3後	25		○			○		○	○	
57	○			検査機器学	検査機器の種類と構造及び、その原理、使用方法、保守の仕方等を修得する。臨床検査にて使用頻度の高い機器については応用利用ができるところまで理解する。	1前	25		○			○				
58	○			医療統計学	統計学の中でも医療の分野における統計学に的を絞り、医療統計とはどういうものか、統計的手法を用いることの有効性および意義とは何かを、実際のデータに基づいた具体的な事例を用いた統計手法の理論と実践から学ぶ。	1後	25		○			○				
59	○			医療管理総論	医療現場で、医師、看護師、薬剤師等の他職種と互角に活躍出来る臨床検査技師に成るためには、医療のマクロからミクロまでの理解が必要です。医療界の様々な法律や規定とその仕組みからはじまり、各種医療機関が個々に抱える問題点等についても解説し、臨床検査技師がどこに就職しても活躍出来る様にノウハウを伝授します。	1後	25		○			○				
60	○			臨床検査総合演習	演習問題を用い検査と疾患との関連性を多角的に解析し理解する。	3後	150			○		○		○	○	
61	○			医療安全管理学	医療事故や医事紛争について学び、患者・医療従事者・社会のそれぞれの視点から健全な医療制度について理解を深める。	3前	25		○			○		○	○	
62	○			臨地実習	学内で習得した知識や技術が、実際の臨床の場において、どのような形で実践されているかを学ぶなかで、医療人としての心構え、医療サービスの精神を養う。	3前	450				○		○		○	○
合計					62 科目		2955 単位（単位時間）									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	全授業科目を履修し修得すること	1学年の学期区分	2 期
履修方法：		1学期の授業期間	15 週

（留意事項）

1　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。